

令和7年度第79回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（創作部門）

○ 応募者数 18人（21人）

○ 入賞者数 7人（6人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○作品総括

栃木県芸術祭も今年で79回を迎えた。戦後80年の今年、各人の存在の意味を見つけようとするものがあって、それなりに読ませる作品が多かった。戦後1年目にこの芸術祭を立ち上げた先人の思いに適うものだろう。

○文芸賞 「傘寿<sup>さんじゅ</sup>のお祝い<sup>いわ</sup>に」

沖縄に生まれ東京に住む母と、東京に生まれ沖縄に住む娘カオリ。自分が何者か悩むカオリと母を結びつける孫娘のシュマリ。親子三代の思いがうまく書き分けられている。戦後の本土と沖縄のありようも考えさせられる。

○準文芸賞 「あさがお」

実母と継母をつなぐ青いあさがおが効果的だ。  
秋明菊の扱い方と父の死後の描写などに難点があったが、すんなりと読める作品である。

○準文芸賞 「蝶<sup>ちょう</sup>の舞<sup>まい</sup>」

破綻なく描かれる素敵な蝶への思いが美しい。蝶が好きな人にはたまらない魅力がある。

○ U25賞 「魚<sup>さかな</sup>の夢<sup>ゆめ</sup>」

自分という存在が何なのか釈然としない時期の感覚が若さを感じさせる。

【入賞者名・作品名】

○ 文 芸 賞

きたはら がく  
北原 岳 （愛知県名古屋市） 「傘寿<sup>さんじゅ</sup>のお祝い<sup>いわ</sup>に」

○ 準文芸賞

ながい そう  
永井 想 （宇都宮市） 「あさがお」

おおいずみ ようこ  
大泉 耀子 （宇都宮市） 「蝶<sup>ちょう</sup>の舞<sup>まい</sup>」

○ 文芸奨励賞

よしだみのる  
吉田 稔 （宇都宮市） 「ハイライト」

おばな よしのぶ  
尾花 好信 （佐野市） 「須花坂<sup>すばなざか</sup>で」

いんなみ ふえ ね  
印南 さやか （足利市） 「笛<sup>ふえ</sup>の音<sup>ね</sup>」

○ U25賞

すずき ななみ  
鈴木 七海 （日光市） 「魚<sup>さかな</sup>の夢<sup>ゆめ</sup>」

令和7年度第79回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（随筆部門）

○ 応募者数 27人（27人）

○ 入賞者数 8人（8人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

応募数は前年度と同じ27篇であるが、これは近年で最も少ない。これ以上減少しないことを望むと同時に、若年層の応募を期待したい。

世相を反映したものが多く、なかでも「いのち」や「生きる」ことを考えさせられる作品が目をつけた。

原稿用紙5枚という限られた枚数であるが、これに満たない作品もみられ、残念である。

○ 文芸賞 「枕返しの幽霊」

中学の国語の授業で大雄寺の「枕返しの幽霊」の掛け軸に興味を持ち、住職からその意味を知ることとなった作者。後年、いつの間にか自分が「生きるタスキ」を受けついでいることに気づいた作品である。

○ 準文芸賞 「夫からのメッセージ」

「がん」の宣告より、ご主人を失ったことの喪失感が大きかったという作者の胸中が伝わる。しかし、これにめげずに前に進もうという意欲も感じられる作品である。

○ 準文芸賞 「消された黒板」

多感な高校生時代に遭遇した同校生の自死に直面した驚きと葛藤を鮮明に伝えようとしている。若人の死を考えさせられる作品である。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

|      |     |         |          |      |
|------|-----|---------|----------|------|
| はしもと | さちこ |         | まくらがえ    | ゆうれい |
| 橋本   | 幸子  | （那須塩原市） | 「枕返しの幽霊」 |      |

○ 準文芸賞

|      |     |        |             |      |
|------|-----|--------|-------------|------|
| さとう  | よりこ |        | おつと         |      |
| 佐藤   | 順子  | （宇都宮市） | 「夫からのメッセージ」 |      |
| やまぐち | あきら |        | け           | こくばん |
| 山口   | 昭   | （宇都宮市） | 「消された黒板」    |      |

○ 文芸奨励賞

|      |     |          |             |     |
|------|-----|----------|-------------|-----|
| やまだ  | あゆこ |          | でんわご        |     |
| 山田   | 亜友子 | （千葉県千葉市） | 「電話越しのみずうみ」 |     |
| たけざわ | みえこ |          | せきはん        |     |
| 竹澤   | 美恵子 | （宇都宮市）   | 「お赤飯」       |     |
| ながい  | そう  |          | つむ          | ことば |
| 永井   | 想   | （宇都宮市）   | 「紡ぐ言葉」      |     |
| こばやし | ひろし |          | ことり         | しかえ |
| 小林   | 博   | （鹿沼市）    | 「小鳥の仕返し」    |     |
| くろかわ | あつこ |          | とど          | てがみ |
| 黒川   | 厚子  | （下野市）    | 「届かなかった手紙」  |     |

○ U25賞

該当なし

令和7年度第79回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（詩部門）

○ 応募者数 33人（44人）

○ 入賞者数 9人（9人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○作品総括

詩的な感情表現に優れた作品が多かった。  
応募作品の質は昨年度と大差はなかったが、散文的な作品が多かったのが残念であった。

○文芸賞 「あきあかね」

何気ない会話のスケッチがよく書けている。過去を懐かしむ気持ちが素直に表現されている。

○準文芸賞 「月光読書」  
げっこうどくしょ

抒情性のある詩語が使われていて、「道標のない道を歩こう」のリフレイ  
ンが効果的に書かれている。

○準文芸賞 「ひとりじゃないよ」

成長できなかった児への鎮魂の思いが書かれている。

○U25賞 「泥臭い眼光」  
どろくさ がんこう

情景描写、心情表現に若者らしい新しい表現が感じられる。  
視点をさらに焦点化すると、さらにすぐれた作品になるだろう。

【入賞者名・作品名】

○ 文 芸 賞

いんなみ  
印南 さやか （足利市） 「あきあかね」

○ 準文芸賞

み う  
あかつき 美雨 （宇都宮市） 「月光読書」  
げっこうどくしょ

あたゆうすけ （宇都宮市） 「ひとりじゃないよ」

○ 文芸奨励賞

ひ こう きぐも  
くぼかわけんいち （宇都宮市） 「飛行機雲」

みず き れい や  
水城 黎夜 （宇都宮市） 「駆けるもの」  
か

くすのき しず り  
楠木 静梨 （宇都宮市） 「私は虫」  
わたし むし

えすぜろごー  
S O 5 （宇都宮市） 「ノイズキャンセル」

むらたけ ひろし  
村竹 弘 （足利市） 「椋鳥」  
むくどり

○ U25賞

おおがね  
大金 ゆづき （東京都西東京市） 「泥臭い眼光」  
どろくさ がんこう

令和7年度第79回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（短歌部門）

○ 応募者数 32人（35人）

○ 入賞者数 8人（9人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

応募数は減少したが、作品の質には上質なものが多く見られた。ただ、作品の書き方などにバラつきがあり、一つの作品としての純度が求められるのではなかろうか。

○ 文芸賞 「おむすびころりん」

認知症の果てに亡くなられた夫の生前に向き合い、甘さを極力抑えた作品の説得力に納得した。具体を生かした作品で、完成度の高さは文芸賞に相応しい。タイトルの付け方も素晴らしい。

○ 準文芸賞 「シロクマとゾウ」

従来の短歌の概念から大きくはばたいた作品は、軽く、明るく、リズムカルで快い。その中であって、生活実感のある作品も散見されるが、あくまでも表面上、軽さを感じさせる。現代短歌の傾向に敏い作品である。

○ 準文芸賞 「<sup>にちにちこれこうじつ</sup>日日是好日」

日常の中から一つ一つ丹念に掬い上げた作品には瑞々しい詩情があり、読み手の心にすんなりと入ってくる。この先、どのような方向に広がってゆくのか、期待される。タイトルにもう一工夫欲しい。

【入賞者名・作品名】

○ 文 芸 賞

<sup>そうま</sup>相馬 <sup>よしこ</sup>芳子 （那須塩原市） 「おむすびころりん」

○ 準文芸賞

<sup>くぼかわ</sup>久保川 <sup>けんいち</sup>賢一 （宇都宮市） 「シロクマとゾウ」

<sup>すずき</sup>鈴木 <sup>よ</sup>みち代 （那須塩原市） 「<sup>にちにちこれこうじつ</sup>日日是好日」

○ 文芸奨励賞

<sup>かわさき</sup>川崎 <sup>としお</sup>利夫 （壬生町） 「<sup>むすこ</sup>息子よ、<sup>むすめ</sup>娘よ、」

<sup>うえすぎ</sup>上杉 <sup>さとこ</sup>里子 （那珂川町） 「<sup>あか</sup>赤とんぼ」

<sup>ただき</sup>多田木 まさのり （小山市） 「<sup>げんりゅう</sup>源流へ」

<sup>せきぐち</sup>関口 <sup>え</sup>まり江 （栃木市） 「<sup>とう</sup>お父さん、あのね」

<sup>ふくだ</sup>福田 <sup>きおり</sup>樹生里 （宇都宮市） 「<sup>はなつ</sup>花摘むように」

○ U25賞

該 当 な し

令和7年度第79回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（俳句部門）

○ 応募者数 39人（42人）

○ 入賞者数 8人（8人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○作品総括

応募数は昨年度より3点少なく、39点だった。全体的に可もなく不可もない作品が多く、そのため評価が分かれ、24作品に何らかの票が入った。表記の点では旧仮名と新仮名が混在したが、正しく書かれていた。それに対して漢字の誤記がいくつかあった。

○文芸賞 「雲巖寺」  
うんがんじ

「雲巖寺」をテーマに、地域の名詞を巧みに織り込み、格調高く仕上がっていたが、既視感のある句が混在していて惜しまれた。

○準文芸賞 「稽古場」  
けいこば

具体的な情景描写が的確であり、季語がよく働いている。全体的によくまとまっているが、やや予定調和的な句が多いのが気になった。

○準文芸賞 「鄙住まひ」  
ひなず

一句一句がしっかりしており、全体としてまとまりのある作品群であった。句材を自分の生活に求めて、それなりの句が多かったが、これという目を引く句が少なかったことが惜しまれる。

【入賞者名・作品名】

○ 文 芸 賞

なかむら さなえ 中村 早苗 （宇都宮市） 「雲巖寺」  
うんがんじ

○ 準文芸賞

おの のりお 小野 則雄 （宇都宮市） 「稽古場」  
けいこば  
かたにわ きょうこ 片庭 恭子 （宇都宮市） 「鄙住まひ」  
ひなず

○ 文芸奨励賞

いとう ふせん 伊藤 普泉 （那須塩原市） 「古希の手習ひ」  
こき てなら  
おがわ こ 小川 たか子 （益子町） 「まだ泣けり」  
な  
たなか ひさこ 田中 久子 （那須烏山市） 「初音」  
はつね  
にしづか こ 西塚 とみ子 （大田原市） 「夏の雲」  
なつ くも  
みうら まさこ 三浦 昌子 （宇都宮市） 「風五月」  
かぜ ごがつ

○ U25賞

該 当 な し

令和7年度第79回栃木県芸術祭文芸賞審査結果（川柳部門）

○ 応募者数 34人（33人）

○ 入賞者数 8人（8人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

完成度の高い作品が多く、選考に苦慮した。手慣れた作品が多く、また、内容の濃いものであった。

題名との一貫性を欠いているものが見受けられた。やはり「10句の群作」との考えから、題と句の一貫性や物語りが欲しい。

○ 文芸賞 「ジレンマ」

「17文字の短い詩」を思い起こされる。奥深い人生観を捉えている作品である。巧みな着眼、繊細な描写がされている。自然のユーモアだ。

○ 準文芸賞 「余生」

表題を踏まえ、暮らしの中のあらゆる場面に対して、的確な表現で詠われている。

○ 準文芸賞 「風」

風をテーマに、日常の風との係わりと風の多様性を見事に詠んでいる。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

やすい たかこ  
安井 貴子 （日光市） 「ジレンマ」

○ 準文芸賞

たなか らいせん  
田中 来川 （日光市） 「余生」  
さとう たかひさ  
佐藤 隆久 （宇都宮市） 「風」

○ 文芸奨励賞

ふくだ つねさん  
福田 恒産 （日光市） 「ゆっくり」  
ぬまお とよ  
沼尾 登代 （鹿沼市） 「退院そして明日へ」  
しのはら あきら  
篠原 晟 （佐野市） 「生きる」  
せき こ  
関 ふさ子 （宇都宮市） 「家族」  
こぼり まさし  
小堀 昌司 （神奈川県横浜市） 「子育て」

○ U25賞

該当なし